





七
二



其由縁

鄙俚

種員作

豊國画

第七編

上之卷

照降町

錦昇堂梓



其由縁鄙俚第七集叙

原書に近江の石山寺ふ奈篋て綴出しといふ証する説ときしうど式部が
 秋の夜乃月と等しく輝けぬ其月あつぬ品定の夜雨の辛寄さへ
 忍びまの巻の長きと短き夕日照せる瀬田の橋此物語の久く鳴事三井
 の鐘ももゆこれ暮雪ふ名ある比良の山賤矢橋楫操船人近堅田の
 雁の落あく知らん柳かゝる愛顧東西と果敢き策子と翹案栗津
 の嵐暗がめく江湖と馳せ售所業あつる世活とすこみのみせん
 八景の比ぶれと彼國ふ採筆なつる安藤生が明白ふはつらひ
 るる紫女七論七編の序ハ斯なりゆけり

嘉永壬子獻歳

柳下亭種員記



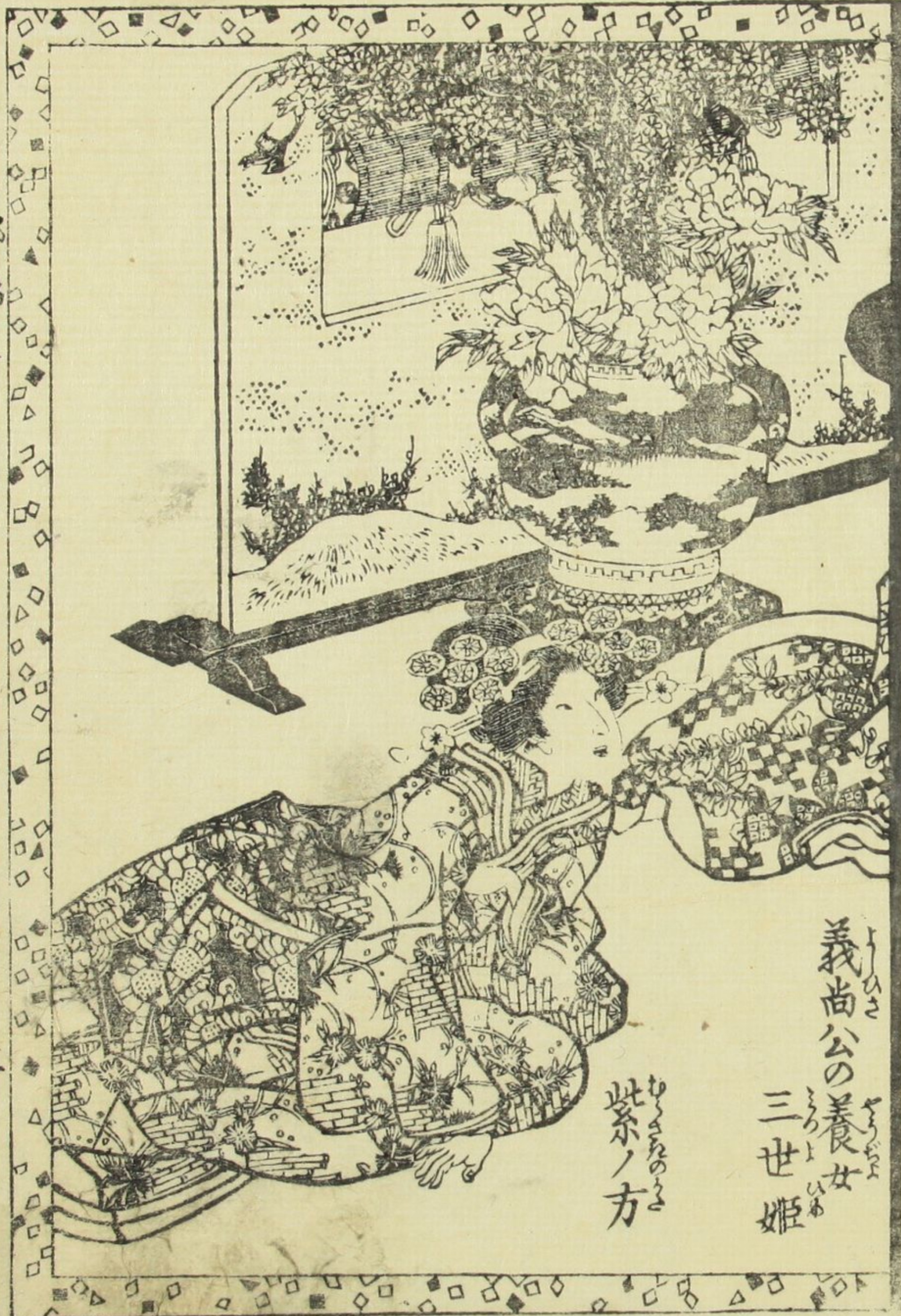
申きの
うらや
うらぬ
乃山
松の
すま
うま
や



足利輝基
西山の
別館の兄
義尚入道殿
訪問玉高

若菜上巻
内ふをとりめなりのく
河をばらひのあけさりと
まらなり六条院も
まらなり内ふちより
あくとつてそ
まらなりそまら
法入ま

置候



義尚公の養女
三世姫

紫ノ方



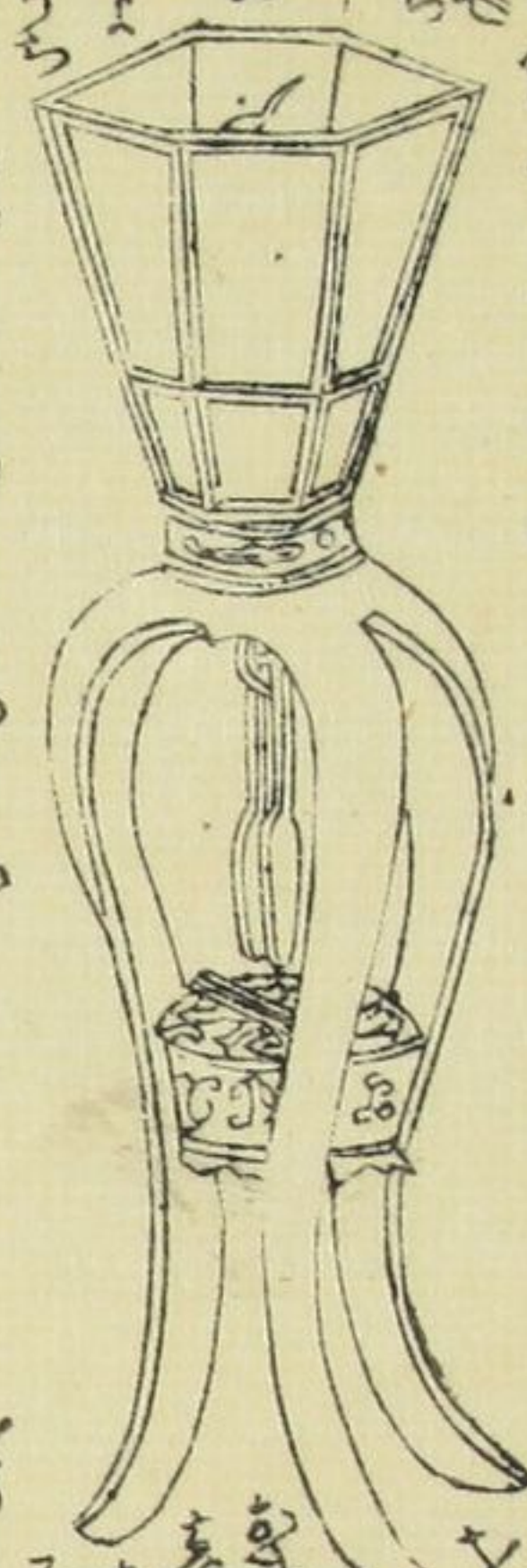
若菜上奏

所お海やういさあうく
 せえかりおひて申のちあひて
 へうの対面おひていさ
 おひよのさうさうさう
 おひさうさうさう
 あやめりてさうさう
 昔のさうさうさう
 さうさうさうさう

足利義隆公の薫中
明石ノ上

女三
宮小比

入道とてかみなりみんごともあつしやうかひなき
かのうらぶあしは共とゆふにたしをすげんと
つぎのちのちあふみまはせとせがここのちのちのち
あふみまはせのちのちのちのち



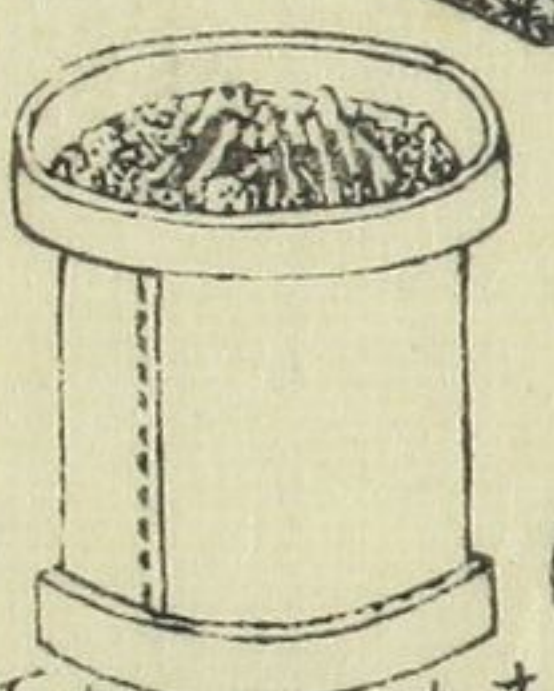
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち



あつしやうかひなき
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち



あつしやうかひなき
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち



あつしやうかひなき
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
このちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち





あはれとあはれ
さきさきと
のまへと
あはれとあはれ
さきさきと
のまへと
あはれとあはれ
さきさきと
のまへと

あはれとあはれ
さきさきと
のまへと
あはれとあはれ
さきさきと
のまへと
あはれとあはれ
さきさきと
のまへと



あはれとあはれ
さきさきと
のまへと
あはれとあはれ
さきさきと
のまへと
あはれとあはれ
さきさきと
のまへと

あはれとあはれ
さきさきと
のまへと
あはれとあはれ
さきさきと
のまへと
あはれとあはれ
さきさきと
のまへと



種員作曲豊國画

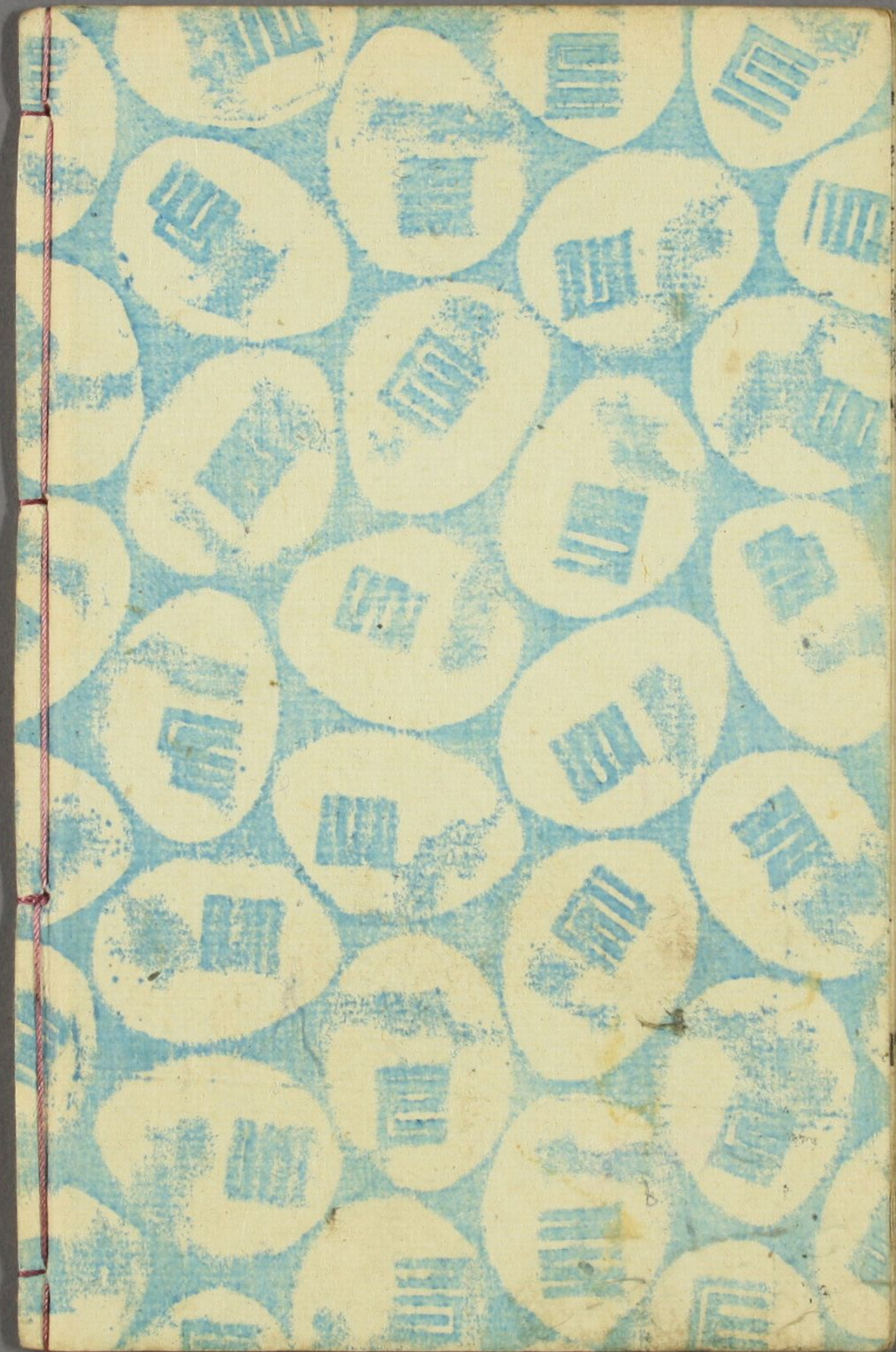
義尚公西山仁和寺小
隱僧下
て法号と
照山と
新せ
ら

かき
ひの
つる
ま
つる
つる
つる

滑柱百富士詣
 富士山開通の御縁年小當りて千人の登山許されたる
 東海不促途中箱根七箇の温泉地
 東都帰着
 流行りや藝者
 流行り言の
 大江戸の
 脚色筆談
 腹をか
 任文小筆と揮ひ
 板元錦昇堂
 板元錦昇堂
 板元錦昇堂

滑柱百富士詣
 種員作曲豊國画
 一孟齋芳虎在画

地本繪草紙問屋
 照降町
 笑壽屋庄七棟





新

保

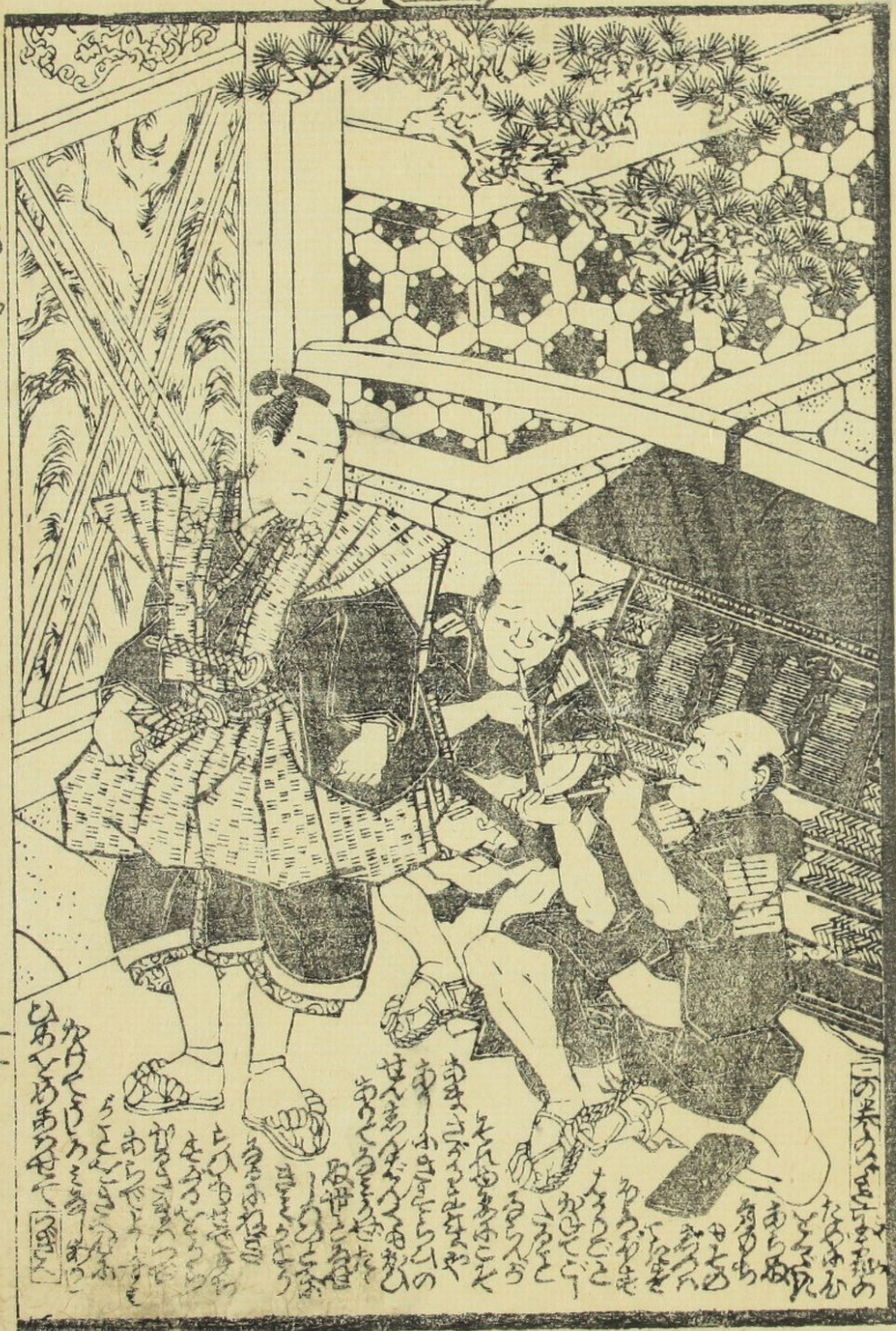
種
貞
作

豊
岡
屋

笑
草
也
好

七
編
下





種貞作
豊國畫

鄙塾

面影

女七の巻

下の巻

笑壽
屋椿





玉壺生肌膏
料花六孔
やけとまらるるを一切
の毒もろくわすのも
とくろふつげをもと
しませ

金瘡 奇功帝料花乳
即愈
うらみもささちのちやのちやをくゆふ
ささくもあててうけけ外ゆめゆめ
包みぬらう

調合所 新吉原 玉樓

種員作
豊國画



取次 真山
東石坂下
柳下亭

其由縁部傳 二十一編 種彦作
二十一編 國貞画

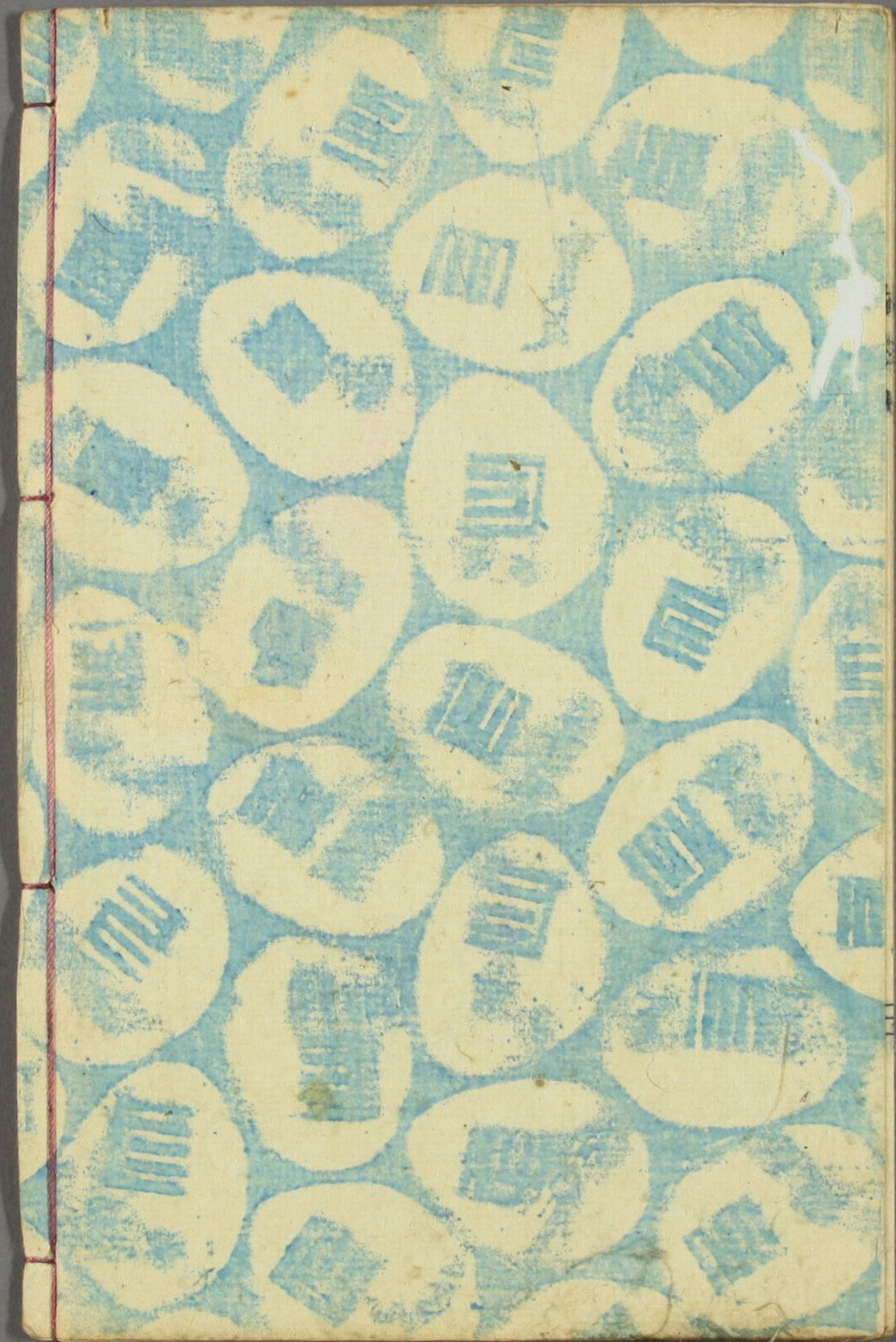
十勇士尼子の礎 五編 魯文作
六編 芳虎画

雨夜鐘四谷雜談 九編 魯文作
十編 芳虎画

比奈乃都大内譚 三編 種彦作
四編 芳虎画

稲妻形 怪鼠標 子七編
桑亭西馬編
魯文作
國明画

の地本別名 江戸てりあり町志ひすや 庄七





其

由

家

鄂

侍

作

種

國

阿細

合四

